

## 報告要旨

### 世界における植物油の貿易流動パターンの把握

佐野聖香（立命館大学）

本報告の目的は、世界における植物油の貿易流動パターンの変容を明らかにすることにある。

21 世紀に入り、中国を始めとする新興諸国の経済成長に伴い、それらの国々で食生活の欧米化が加速し、食肉・油脂類の需要が著しく拡大している。また、石油依存からの脱却や環境問題への配慮から世界各国でバイオ燃料の混合義務化の法律制定や義務化率の引き上げが行われ、植物油のパーム油や大豆油等はバイオ燃料（バイオディーゼル）の原料としての需要も年々高まっている。さらに、パーム油等は、食用油のみならず油脂化成品（脂肪酸、グリセリン、天然高級アルコール、界面活性剤等）や洗剤・石鹸・化粧品等の原料として幅広い用途で利用されている。これらを背景に、農産物貿易に占める植物油の貿易も年々拡大している。そこで本報告では、地域間の依存関係を視覚化・空間化する因子分析の手法を用いて、大豆油とパーム油の貿易流動パターンを計測する。